

Framework of subjective cognition in community-dwelling individuals with schizophrenia who experienced long-term hospitalization

著者	川村 みどり
著者別表示	Kawamura Midori
journal or publication title	博士論文要旨Abstract
学位授与番号	13301甲第4795号
学位名	博士（保健学）
学位授与年月日	2018-09-26
URL	http://hdl.handle.net/2297/00053128



平成30年8月22日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1429022006

氏名 川村 みどり

論文審査員

主査(教授) 加藤 真由美

副査(教授) 稲垣 美智子

副査(教授) 塚崎 恵子



論文題名 Framework of subjective cognition in community-dwelling individuals with schizophrenia who experienced long-term hospitalization (長期入院を経験し地域で暮らす統合失調症者の主観的認知の構造)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

研究目的は、統合失調症者の地域生活における主観的認知の構造を明らかにしたことである。対象者の選定基準は3年以上の入院経験がある20歳以上の者であった。半構造化面接を実施し、入院や地域生活に関する質的データを収集した。データの分析方法は、混沌とした言語的データから物事の本質を導き出すとされるKJ法を用いた。金沢大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:614-1)。対象者は8名であり、平均年齢50.0±7.6歳、平均入院期間13.6±10.9年、平均地域在住期間10.0±5.6年、全員が就労しており、独身であった。住まいは、家族同居1名、グループホーム3名、独居4名であった。結果、入院とは【理不尽な状態から抜け出したい】【病院=守られる安心】【信仰に救いを求めて】という、コントロール不能で無力感の強い状態であった。退院後は【過去に怯えない】【再入院しない闘い】という、過去と距離を取りつつ、コントロールできる立ち位置を模索していた。地域生活では【結婚生活への憧れ】を秘めつつ、【社会的なポジションにおいて無理しない】【健常者との壁を越えたい】【普通の実感を励みに】という、自分に合った居場所を希求する意識がみられた。【苦悩からも学び、自分を変えていく】ことで、入院中・退院後のさまざまな体験の意味を考え、自己を変容する姿勢がみられた。

【審査結果の要旨】

対象者のリクルートが困難な状況において、長期入院を経験した統合失調症者の地域での暮らしを包括的に捉え、それを構造化したことは独創的である。統合失調症者の地域生活の支援は生活の質向上やノーマライゼーションの推進において重要であり、本研究成果は支援を行う上で重要な知見となった。公開審査会では質疑応答を適切に答えていた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。